

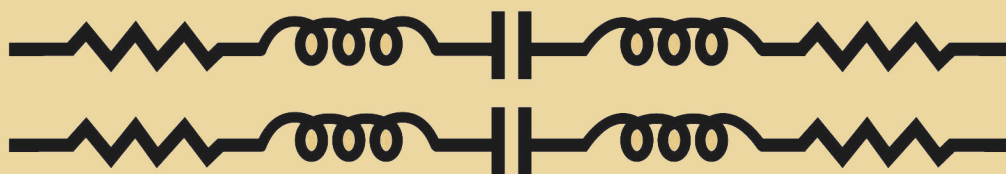


岩手大学電気電子情報科会誌

# きたかみ

第 69 号

2023 年 3 月 発行



# 目 次

会長挨拶	会長 久保田賢二	1
退職された先生からの寄稿		
「大学生活を振り返って」	恒川 佳隆	2
電気電子通信コースの近況	電気電子通信コース長 長田 洋	4
知能・メディア情報コースの近況	知能・メディア情報コース長 今野 晃市	5
草刈賞について		6
仙台支部からの寄稿		
散歩の勧め	加藤 雅和	7
Before After	熊田 克俊	8
「惑いを持ったままそろそろ天命を知る年齢となる」	柏葉 安宏	9
ホーチミンに駐在して思うこと	大竹 俊	10
《支部だより》令和4年度東京支部報告	狩野 利之	11
令和4年度仙台支部報告	田中 利光	12
令和4年度盛岡支部報告	宮手 敏雄	13
令和4年度岩手大学電気電子情報科会総会・議事録		14
令和3年度決算書・令和4年度予算書		15
令和4～5年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿		16
令和4年度電気電子通信コース、知能・メディア情報コース教職員名簿		17
総会添付資料・理事会議事録		18
令和4年 年表		19
岩手大学電気電子情報科会会則		21
トピックス・編集後記		22
創立80周年記念式典並びに令和5年度総会のご案内		裏紙

## ご 挨拶

会長 久保田賢二（昭和 42 年電気卒）



会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。また平素は本会の運営に対しご支援ご協力を賜り深謝申し上げます。ここに会誌「きたかみ 69 号」をお届けできますことを嬉しく思います。

今年 3 月 11 日で東日本大震災から 12 年になりますが、この間も各地で地震や豪雨、河川氾濫、大雪等々自然災害が発生しており、被害に遭われた方々のご苦勞に思いを致します。また昨年秋口から行動制限のない日々が続いておりますが、一昨年・昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止対策にご苦勞が多かったことと思います。本会におきましても、令和 4 年 1 月 1 日に創立 80 周年を迎えるのを記念して、創立 80 周年記念式典・祝賀会を昨年度の総会の日を実施するべく計画していましたが急遽 1 年間延期して、来年度の総会の日併せて本年令和 5 年 6 月 17 日土曜日に仙台で実施することになり、仙台支部のご協力のもとに準備を進めております。また東京支部のご協力のもとに記念式典のライブ配信を行う計画もされております（詳しくは総会・80 周年記念式典案内をご覧ください）。

さて、本年も 3 月 23 日に母校を卒業・修了する新たな正会員百数十名を迎えますこと、真に喜ばしいこととあります。今春の学部卒業者は平成 28 年度に改組・設置された理工学部システム創成工学科の電気電子通信コースと知能・メディア情報コースの第 3 回卒業、大学院博士前期課程（修士課程）修了者は改組後の第 4 回修了、大学院博士後期課程修了者は改組後の第 2 回理工学研究科博士後期課程修了とのことです。卒業生・修了者の皆様のご健康とご発展を祈念致します。

次に、誠に残念な事ではありますが、元副会長菊池昭雄氏（昭和 29 年電気卒、IBC 岩手放送元社長）の訃報に接しました。令和 4 年 9 月 25 日に 90 歳で逝去されたとのことです。同氏は昭和 53-54 年度に本会の副会長を務められ、また副会長就任前後は盛岡在住中長年理事として諸行事の中核の委員を歴任し、科会に多大の貢献をなされました。また、母校で平成 11 年度～13 年度に電気通信普及財団の援助を受けて開講した「メディア通信技術の動向と社長実践学特別講義」では「『放送技術概観』－過去・現在・未来－」と題する講義を担当して下さり、受講生から好評を博しました。衷心よりご冥福をお祈りします。

ところで、本会の運営経費は①母校に入学する時に頂く入会費と、②卒業後 10 年毎に納入頂く年会費 1 万円（過去 10 年分の会費）によって賄われております。年会費未納の方には振込用紙を同封しますので、事情をご賢察頂き納入下さるようお願い致します。

終わりに、本号の「支部からの寄稿」は、輪番で仙台支部から寄稿を頂きました。会員皆様のご健勝を祈念し、ご挨拶と致します。

## 「大学生活を振り返って」

恒川 佳隆（昭和55年電気卒）



会員の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて私こと、令和4年3月をもちまして、岩手大学を定年退職いたしました。岩手大学工学部電気

工学科に着任したのが昭和58年4月でしたので、39年間の長きにわたり勤務させていただきました。もともと、学生時代を含めると42年間岩手大学にお世話になりました。この間、皆様のご厚情に支えられ、大過なく職務を果たすことができましたこと、改めて心から感謝申し上げます。

私が盛岡に来た最初のきっかけは、高専の学生時代友達と二人で盛岡に旅行で来て、たまたま開運橋から岩手山を眺めたのが、縁だったかもしれません。鮮やかな青空の下余りの大きさと美しさに感動し、開運橋の名のごとく、自分の人生がここから開けるのではないかと強く感じました。

岩手大学の学部4年生の時は、志田先生、三浦先生、関先生から成る電力応用講座にお世話になりました。その年は進級者が少なく、講座の同期は小川君、田代君、松田君、森君と私を含めた5人でした。卒業研究は三浦先生にお世話になりました。確か磁気回路による剰余数系を用いたフォールトトレラントシステムの研究だったと記憶しています。指導教員3人に学生が5人と、振り返ってみると今の時代には考えられない程恵まれた教育環境だったかもしれません。私が在職時には、多いとき一人で一学年7～8人の学生をもっていましたので。同期

の4人は皆個性豊かで面白く、とても楽しい学生生活を送りました。研究室の皆と重い鉄板をもって区界高原に行って焼肉をしたのをよく覚えています。今から思えば、クマに遭遇しなくて本当に良かったと思います。肉を持って行って、我々がクマに食われたら冗談にもなりませんので。

学部卒業後は東北大学の大学院に進み、樋口先生の研究室にお世話になりました。研究テーマは自分で考えろということだったので、状態空間デジタルフィルタの高速実現ということで、新しい並列アーキテクチャの提案と試作に取り組みました。当時高価だった20万円もする乗算器を惜しげもなく何個も買っただけ、マイクロプログラム制御で動作する超並列処理装置の試作を行いました。寝食は忘れませんでしたが、日夜頑張って開発に取り組みました。装置が完成し、最初に動かしたときは、樋口先生始め研究室の皆が集まってくれて、スイッチを入れた瞬間正常に動作して皆から祝福の拍手をうけました。研究の面白さを実感した瞬間でもあります。

その後、志田先生からお誘いをいただき、昭和58年4月に岩手大学工学部電気工学科に着任しました。研究室には関先生もいらして、一緒にやらせていただきましたが、磁気関係の先生方とは研究の分野が異なるため使用できる実験装置がありませんでした。そこで、パソコン1台買っただけ、デジタルフィルタの設計問題から研究を始めました。

私が着任した当時は、電気系は電気、電子、情報の3つの学科から構成され、3学科一体運営された大きなものでした。当時、系の教職

員数が余りに多く、名前と顔を覚えるのが大変だった記憶があります。平成6年から5年間、情報工学科で講師としてお世話になりました。情報では、三浦先生の研究室と一緒に活動させていただき、田山先生、千葉先生にも大変よくしていただきました。

平成11年には電気電子工学科に戻り、平成12年以降、法人化を挟んで3度の改組を経験しました。学科も、電気工学科、電気電子工学科、電気電子・情報システム工学科、システム創成工学科電気電子通信コースと変遷してきました。考えてみると、改組ごとに学科の名前がだんだん長くなって、次回の改組では名前がどのようなになるのか楽しみです。とはいえ、改組は大学の生き残りをかけた戦いでもあり、大学の大変さを実感してきました。

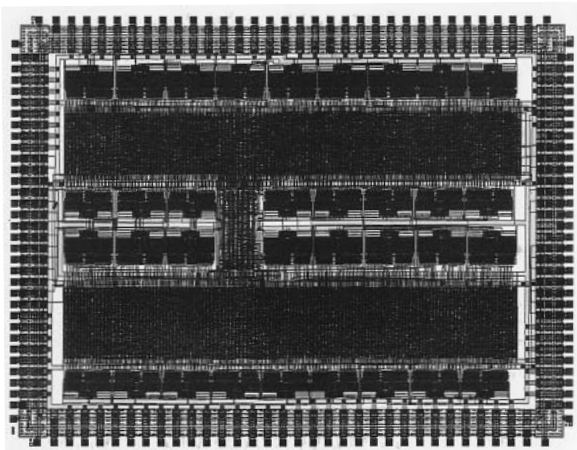
研究面では、当初は状態空間デジタルフィルタのVLSI向き高性能プロセッサの開発を行ってきました。研究が進むにつれ、他の応用分野にも目を向けるようになりました。ソフトウェアにとってアルゴリズムが重要なように、ハードウェアにとってもアルゴリズムが重要であるという考えで、「ハードウェアアルゴリズム」の提唱を行ってきました。何十万～何百万ゲートの大規模な素子を組む場合、やみくもに組んでも、性能の高いプロセッサを得ることは

できません。それゆえ、対象となる問題に特有な規則性を見出し、効率性の高いアルゴリズムを開発する必要があります。

ということで、学生さん達と一緒に制御関係、適応あるいは多次元信号処理関係、暗号処理関係など各種の高性能プロセッサ、および高性能演算器の研究開発を進めてきました。図は学生さんと初めて製作したプロセッサのチップレイアウトです。当時は大変でしたが、今は楽しい思い出です。また、最後の方は画像認識や生体信号の検出などの研究にも携わりました。学生さんと共に研究できたことは、私にとって大きな喜びです。また、研究もそうですが、何よりも学生さんと一緒にお酒を酌み交わせたのが、最高の幸せでした。ドクターコースを修了した日野杉君、高橋君、野崎君、工藤君はじめ、研究室の卒業生の皆さんには感謝の言葉しかありません。いたらぬ点があったとすれば、どうかご容赦下さい。

また、学科の運営面では、私が教授に昇格した頃、ちょうど多くの先生方が定年退職を迎えられました。そのため、多くの人事に係り大変なこともありました。皆様のご尽力もあって、現在素晴らしい教授陣に恵まれたと自負しています。どうか、先生方には将来の学科の発展にご尽力いただき、学科を未来につなげていってくれることを切に願います。

39年間という長い期間、研究・教育活動が続けてこられたのも、無事に定年退職を迎えられたのも、諸先生方はじめ多くの皆様のご支援の賜物と心より感謝いたしております。最後となりましたが、会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈りし、電気電子情報科会の益々のご発展をお祈り申し上げます。ありがとうございました。



チップレイアウト

# 電気電子通信コースの近況

システム創成工学科

電気電子通信コース長 長 田 洋

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素よりコースの運営にご理解とご協力を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。

電気電子通信コースでは今年度、66名の学部生、25名の修士課程学生を新たに迎えることができました。本コースの教職員スタッフは、前年度に恒川佳隆教授、千葉茂樹技術職員、および栗田宏明技術室長がご退職されたため、今年度は、教授6名、准教授6名、助教5名、技術部職員6名で教育および研究活動を行っております。恒川先生、千葉さん、栗田さんの長年にわたる多大なるご尽力に改めて感謝申し上げます。

今年度は、感染症対策を実施の上、岩手県民会館において、3年ぶりに入学式が実施されましたが、教育・研究分野でもウイズコロナへの移行が進んでいます。

今年度は、基本的に全ての講義を対面で実施できました。また、県内に限定したものではありませんが、3年生の工場見学（富士フィルムヘルスケアマニュファクチャリング、デンソー岩手、大井電気、ミクニ、イーアールアイ、ツガワ）も実施されました。

研究面では、延期されていた村田健太郎助教の長期学外研修（研修場所：Lund University (Sweden)、研究テーマ：探知困難な電池切れデバイスへの高効率給電を実現するマイクロ波電力伝送法の確立、期間：1年）が、8月に実現しました。また、次年度の4月からは、これも延期が続いていた阿部貴美助教の国際共同研究加速基金による渡航（共同研究場所：University of Saskatchewan (Canada)、研究テーマ：ESRによるZnO単結晶の欠陥解析とYAP:Ce/ZnO放射線検出器の開発、期間：1年）

が予定されています。どちらもその研究成果が期待されています。

一方で、コースや研究室での歓迎会、観桜会、忘年会、新年会、ソフトボール大会などは、いまだ開催を見送っている状況です。学生時代である今しか味わえないであろうことを体験させてあげられなかったことは、まことに残念でなりません。

学会などでは対面とリモートのハイブリッド形式が定着しつつあります。リモートには場所には制約されない便利さがありますが、対面でしか伝えられないこともあります。当コースでも、状況に応じて臨機応変に、各々の利点を上手に利用して、教育と研究の質の向上に取り組んでまいりたいと思います。

学生の進路に関しましては、今年も大学院進学率は約5割となりました。就職も例年通り堅調です。今年は半導体関連メーカを希望する学生が多くみられました。日本の景気はコロナ危機から回復傾向をたどってきてはいますが、ロシアによるウクライナ侵攻や高インフレと金融引き締めなどによる世界情勢の影響もあり、まだまだ低迷気味です。しかし、このような状況であっても、当コースの卒業・修了生への期待度は高く、これもひとえに電気電子情報科会諸先輩方のご活躍の賜物であると思います。

最後になりましたが、今後も教職員一同、社会で活躍できる優秀な人材をより多く送り出すことができる、より魅力のあるコースとなるよう、教育と研究の充実に努力して参る所存です。会員の皆様には、今後とも本電気電子通信コースの教育・研究活動等へ、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

# 知能・メディア情報コースの近況

システム創成工学科

知能・メディア情報コース長 今野 晃 市

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のことと拝察申し上げます。2019年早々から新型コロナといわれ始めて3年経過していますが、いまだに収束しているとは言えない状況で、早く3年前の日常に戻ってほしいと、祈るばかりです。

平成28年度の改組により、知能・メディア情報コースが誕生してから今年で7年目になります。今年度は、66名の新入生を迎えることができました。入試倍率も好調で、昨今のAI・データサイエンス人気も反映されていると感じています。現在、当コースには、教授6名、准教授7名、助教4名、合計17名の体制で、教育・研究を行っております。今年度の講義は、基本的には対面で行われていますが、適宜オンラインやオンデマンドの講義が用いられています。例えば、濃厚接触者となった学生や、体調不良となった学生に対してオンラインやオンデマンドの講義は非常に有用であり、学生の勉学意欲を損なわずに、コロナへの対応ができています。また、昨年度からは、ノートパソコン必携化となり、すべての学生はノートパソコンやタブレットを積極的に活用して授業を受けています。私の講義でも、ノートパソコンやタブレットでとったりする学生も見受けられ、今後このような学生は増えていくと思われまます。

さて、今年度後期ごろから国の水際対策が大きく緩和されたこともあり、本学協定校のモンゴル国立大学の80周年記念イベントに参加してきました。今回の参加者は、副学長(藪先生)、今野、田中、松山、国際課職員で、3年ぶりの海外出張となりました。現地では、80周年記念イベントのほかに、モンゴル国立大、モンゴル科技大の関係教員や学生と交流しました。また、日本学生支援機構主催の日本留学フェアにも参加し、岩手大学を志望する学生さんへ、本学の説明を行ってきました。そのときも、AI・データサイエンス、コンピュータグラフィックスなどの問い合わせが多く、情報系人気は海外でも同様な状況であることが、認識できました。問い合わせしてもらった学生さんたちが、本コースへ入学することを楽しみに待っています。

研究面では、多くの学会や研究会がオンライ

ン開催されていますが、いくつかの学会が対面とオンラインのハイブリッドにより開催しています。ハイブリッド開催は、対面だけやオンラインだけの開催と比べて、運営側のマンパワーやハイブリッド向けのノウハウや機材などが必要となりますが、参加者側としては非常に参加しやすい環境になっていると思います。特に学生さんが就活と重なって研究発表が難しい、など予定を立てにくい場合には、オンラインの恩恵を感じます。一方で、オンラインでは他大学の先生方との情報交換が不十分となるので、現地に行けるようであればその方がベストかもしれません。研究面の明るいニュースとして、下記のような受賞があります。今後の研究の発展に期待がかかります。

- [1] 芸術科学会論文誌 第20回論文賞：丸山健太、松山 克胤、iSea：海況と漁獲データの結びつけによる関連性の可視化、2022年11月
- [2] 芸術科学会主催 NICOGRAPH 2022 優秀論文賞(フルペーパー)：高橋 司、游 夢博、今野 晃市、計測点群を用いた石器剥離面と接合資料表面の部分マッチング手法の検討、2022年11月

また、理工学専攻デザイン・メディア工学コースでは、2022年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択されました。今回は2019年に続いて2回目の採択となります。このプログラムでは、5名の留学生(博士課程2名、修士課程3名)を本コースから国費留学生に推薦できるもので、3年間で合計15名の国費留学生を受け入れ可能とするものです。この制度を活用して優秀な国費留学生を受け入れ、グローバルな環境で学生の教育研究を推進しています。

4月から、談 宜育 氏が准教授として、8月から游 夢博 氏が助教として着任し、本コースの教員数は16名となっております。また、今年度いっぱい、西山 清 教授が退職されます。長い間大変お疲れさまでした。今後のご活躍をお祈りしています。

早く新型コロナウイルスの影響がなくなことを祈りつつ、教職員一同、継続して精進していく所存ですので、会員の皆様には、益々のご支援を賜りますよう、よろしくお祈りいたします。



## 新型コロナウイルスの流行と草刈賞

草刈賞委員会

柏 葉 安兵衛

草刈賞は、岩手大学理工学部の前身で昭和14年（1939年）に創設された盛岡高等工業学校電気科科长であった、故草刈遜先生のご生誕100年を記念して平成16年1月（2004年）に創設された賞で、電気系工学科の学部学生に有意義な学生生活を送って欲しいという願いが込められています。そのため、後輩の模範、目標となるような意欲的な学生生活を送った学生に、卒業時に学部長から与えられています（第1回表彰は2004年3月）。18年間にわたって一度も欠かすことなく表彰が続いてきて、これまで50名が受賞しましたが、令和3年度（2022年3月）は残念ながら該当者が見つからず、表彰できませんでした。

その理由は新型コロナウイルスの影響です。2019年に始まった新型コロナウイルス感染は、岩手ではしばらくのあいだ感染者ゼロの状態が続いていましたが、やがて感染者がどんどん増えて、病院でのクラスター発生などもあって死者も多いという事態になりました。このため密閉、密集、密接という三密を避けることが厳しく要請され、岩手大学でも授業は実験も含めてリモートで行うなど、学生・教職員とも大変苦労した時期でした。もちろん学生はアルバイト、部活、課外活動など、人と接触するような行動は厳しく制限されました。その結果、アルバイト収入がなくなって困窮する学生が多数生じ、電気電子情報科会でも「岩手大学イーハトーブ基金」に学生の修学資金として寄付をしたことが昨年発行の「きたかみ68号」に載っており、皆さんご存じのことと思います。

上述のように、草刈賞の対象者としては教室の中での勉強とは別に教室の外での活動が評価されていますので、三密を避けるという要請は学生に学外でのボランティア活動などを禁止するものとなって、2019年後期～2022年前期は

学生のクラブ活動、課外活動は全くできない状態が続きました。2022年後期は規制がやや緩くなったとはいえ、まだ制限があり学生の課外活動に影響が出ています。以上のような状況のため、2021年度（2022年3月）は草刈賞該当者は見当たらず、今回「きたかみ69号」にご紹介できないことを大変残念に思います。コロナ禍が思わぬ形で現れたことに驚いているところです。

草刈賞創設当初、メダルと盾はそれぞれ60個用意されましたが、現在残り10個になってきました。そのため、草刈賞の存廃について理事会で議論されましたが、学生間でも学内でも草刈賞の評価が高まっているとのことから、存続することになりました。これを受けて、数年以内には新たにメダルと盾を用意する必要があると考え、メダルの図案などについて、草刈賞創設にかかわった太田原功先生（昭和30年卒）を中心に何人かの委員で検討しているところです。新しいメダルの表は最初のメダルと同じ草刈先生の肖像を使用することで考えられていますが、裏の文字をどうするかなどを検討中です。資金は、すでに会員から草刈賞基金として頂いているご寄付と、科会で毎年積み立てている積立金とで間に合う予定です。数年後には、新しく制作したメダルと盾で受賞者を称えることができるでしょう。



草刈賞メダルの表と裏の写真（現在のもの）



## 散歩の勧め

加藤 雅和（昭和49年電子卒）

私が東京での約20年の単身でのサラリーマン生活を終えて岩沼市に戻って6年経過し、年齢も70歳を越えてしまった。その間、単調で退屈な日々が続き気が付けば体重はみるみる内に増え75kgになってしまった。そんな毎日の中でも、趣味の海釣りにでかけたり庭いじりなどで生活に小さな変化をつけるように心掛けていたが、何となく時間だけが過ぎていくような焦りのような感情があった。そんな時、定期健康診断で太りすぎに起因する生活改善を保健婦さんに強く勧められたので、減量と内臓脂肪を減らす目的で近くの朝日山公園で一日5kmの散歩を毎日実施することとした。

朝日山公園は自然の雑木林を残し、内部に野球場、テニスコート、貯水池を有する他、一周1.25kmの起伏のある遊歩道を有している中規模の公園である。

公園では早春のモクレンやコブシの開花に始まって、さくら、山つつじ、あじさい、山ユリ、野かんぞう、あざみ、さるすべりなど季節を追って多種多様な花が見られ、秋のすすき、紅葉を経て冬を迎えることになるのである。

また、春には鶯の鳴き声が聞こえ、夏にはうるさいくらいの蝉の声に包まれ、晩秋には貯水池の周辺を赤とんぼが空一面に舞っている。貯水池においては夏には枯れ枝の上に亀が登りひなたぼっこしている姿や、秋には鴨や雁などの渡り鳥が水浴びをしたり群れをなしてゆうゆうと泳ぐ風景がみられる。

散歩中においては遊歩道を青大将やシマヘビがあたかも人が眼中に入っていないかのようにゆっくりよぎったり、カルガモが愛くるしい子供を引き連れて道路の反対にある茂みに連れていくハプニングに遭遇することもある。

しかし、私がこの公園で一番に観察しているのはここを訪れる人々である。

健康維持のため速足で黙々と歩いている私と同年代の男女や、公園の遊具で遊ばせるために訪れている若い奥さんと3歳くらいの子供は公

園の定番の顧客である。

また、木漏れ日が漏れる木の下で虫取り網を一生懸命振っている小さな子供とそれを見守っている母親や、自転車の操作を一生懸命子供に教えている父親などの微笑ましいカップルも見られ、私も自分の遠い昔と重ね合わせなんとなく温かい気持ちに満たされることもある。まれには散歩途中にコースからはずれ蕨やタラの芽などの山菜を採って満足そうにしている中年の女性もいたり、高級な一眼レフを2台肩に背負い野鳥の写真を撮るべく熱心にシャッターチャンスを狙っている人もいる。夏のとある日、落ち葉の積もっている湿った土を熊手で掘り起こしている人がいたので、「なにをしているのですか?」と尋ねたら、「ウナギ釣の餌にするミミズを採っている」とのことでした。

公園を訪れる目的は多種多様であると改めて実感した次第である。

さて、公園に集う人でもっとも多いのは犬の散歩で訪れる人々であるが、その中には犬の散歩をそっちのけで4~5人で連れだって遊歩道一杯に広がって歩き、大声でおしゃべりを楽しんでいる主婦のグループがいる。どうかと思う行動であるが、コロナ禍で人と人のつながりが希薄になる中ではやむをえないことかもしれない。

但し、老夫婦がカップルで散歩している光景などを目にした時などは「この人たちの今に至る道程はどのようなものであったか?」と想い心が癒されることもある。

私にとって公園での散歩は雑念の多い日常からちょっと離れて、異なった空間に身を置くことであり、そこから何か心の糧を得ているような気がする。

散歩の効果なのか体重も9kg減り、今では散歩は生活に彩を与える重要なルーティンの一つとなっている。

私のように時間を持て余している人には、是非、毎日の散歩をお勧めしたい。きっとその中で、小さな発見や癒しが得られると思う。

## Before After

熊田克俊（昭和51年電気卒）

「まいにち何してる？」

「結構色々忙しいけど、主に瞑想！」

退職してしばらくの会話。

60歳を前に、退職後を考えて。一人ですること出来る事、何人かですること出来る事など想定し思いめぐらす。静的な事と動きを伴う事が必要と何かで読んだことを思い出し、静的作業に書道でもと思い硯を求めて雄勝町へ。「Take five」を聴きながらサクスの音色に憧れ動的作業にと、楽器店教室へ。

65歳で退職して約5年、現在70歳。

書道は手付かず、「金継ぎ」を。アルトサクスは続けている。楽器は同じ音が出ると思っていたが、全く違うと分かったのは暫らくしてから。

NPO立ち上げに参加した経緯で、原発被災者援助活動に参加。石川県のNPOとの共同で何回か参加したがどこまでが被災者なのかと違和感を持ち取止め。和太鼓集団「鬼太鼓座」の活動支援を行うもコロナ問題により休止中。NPOは会員の高齢化も伴い先細り状況。会合は飲み会だけになり「ゴルフでも」と月2回程度。岩大硬式庭球部の仲間とも春、秋にゴルフコンペを2、3組で開催。上手、下手でも同じように遊べるのが良いのか続いている。何とか80台を目指して努力中。

62歳の時、地域社会との関係も大切と思いマンション管理組合総会へ挨拶かたがた出席。

60歳代は若手住人と言われ理事就任、マンション修繕担当。修繕改修の依頼を受け工事をするのだが、前任者担当の工事に手直し追加で施工する事に成り感情的蟠りが出来てしまった。

人間関係は会社関係よりもご近所関係のほうが不慣れなのか面倒。3年目に理事長に。大規模修繕工事の諸計画作成。資金不足で3年後の発注が最速の資金計画に。所有者へのアンケートを含め計画書類他作成送付、その他の経過を経てプレゼン実施に至ったが、前日に福島県沖

地震が発生、プレゼンに予定していた会場が使用不可に。1カ月ほど延期したが、7カ月で工事は終了。

同時期、住居者の高齢化に伴う諸問題発生。対応するも解決は難しい。認知機能の低下がもたらす事なので想像出来ない様な苦情（唾棄、喫煙等）多発。管理組合役員のなり手不足がよく分かる。

自分の親の高齢化も重大な問題だ。自分も高齢者になっているので、親はもちろん後期高齢者、認知機能はすっかり衰えて「あれがない」、「これが盗られた」との事件が多発。同居ではないので、夜に発覚し実家に駆けつけることも幾度か。すべては忘れてしまった事が原因で怒鳴っても解決には至らず、同じことが繰り返される。父は昨年他界、母は存命。

我が家は結婚当初から共働きで私が退職後も妻は働いているので夕食の準備を手伝い程度に、食材の買い出しと調理。炒めるか焼くか。煮るのは問題あり。単身赴任8年経験済みだが、自分で食べるのは作れても相手に食べさせるのはハードルが高い。何を食べるかを考えるのも結構面倒になり同じようなものを購入加工。大変さを痛感するも「点心と何か」のように栄養バランスなどは殆ど考慮出来ない。

生活上の問題は常に発生しているが、仕事の主である時と、日常の社会生活が主であるのかではどちらも何かしら問題は発生しているのだが、日常生活の問題のほうが解決しにくいことが多い。人間関係の質が違っていると思う。

本文作成中、リタイア生活を想像したのは自分の事だけで廻り特に妻との関係に思い及んでいない事に気付いた。退職とは「現役の休日」が続く事ではない事が想像出来なかった。今更ではあるが、自立した生活が出来ないとお互い補完する事も出来ないのだと思い至る。食事などの家事分担をすることも大切なことだと痛感した次第。この投稿が目に残る頃には何かし

ら料理ができる様に成っていると思いたい。と思っていたが、料理研究家コウケンテツ氏が「日本の食事はレベルが高すぎる。外国では毎日同じようなものを食べ、品数も多くはない。

魚とジャガイモ、ソーセージとジャガイモなど。」との記事を読む。安堵、レベルが下がった。

これからも「瞑想」しながら「色々」しながら生活しよう。(2022/12 記)

## 「惑いを持ったままそろそろ天命を知る年齢となる」

柏 葉 安 宏 (平成9年電気電子卒)

令和となり数年余の時が流れました。最近、昭和と平成・令和が比較されることも多く、TVでもそのような歌謡番組やクイズ番組などが放送されています。とはいえ、若者のTV離れということも言われています。

令和への時代の移り変わりとともに、様々な技術が劇的に進歩・発展したような印象もありますがどうでしょうか？日本では戦後の1950年代から白黒TV放送が始まり、1970年代にはほとんどの番組がカラー放送になったと聞いています。白黒放送からカラー放送へ移り変わるためにおよそ20年。電子スチルカメラの開発が1970年代に始まり、デジタルカメラの市場が拡大されるまで約20年。その他にも電子レンジ等の家電製品、磁気記録テープ・ディスク、光ディスク等の記録媒体等、昭和の時代に開発され人々の生活を豊かにした製品が多数あります。これらが市場に出た当初も、技術革新、劇的な世の中の進歩と捉えられていたと思います。私自身が初めてCDを買ったときにはオーディオテープから聞いていた音との違いに驚いたものでした。当時も間違いなく技術は進歩し、世の中の利便性は向上していたと思います。しかし、最近の世の中の進歩には、以前よりも非常に大きいものを感じています。皆さんは如何でしょうか？

時代の流れより非常に小さなところですが、論語の第一巻 第二篇 為政にならい自分自身を振り返り、今後を考えると・・・、(数え年か満年齢かは些細な誤差である)

15歳(志学)：昭和から平成になる。学問に志すことなどなく、遊んでばかりいた。

30歳(而立)：ひとり暮らしはしていたが、ひとり立ちしているとは言えない生活を過ごしていた。

40歳(不惑)：私生活・仕事ともに新しい問題に遭遇することが増えた。周囲を惑わしてばかりいる。

平成から令和になり、そろそろ↓になる。

50歳(知命)：天命などわかりそうになく、不惑から10年経っても迷ってばかりであろう。

60歳(耳順)：周囲の意見を聞いているフリはできるようになるであろう。

70歳(従心)：思うように行動したら大変なことになりそうだ。

閑話休題、昭和、平成、令和の流れの中でここ10数年の間でしょうか、ユビキタスネットワーク、IoT、第5世代通信(5G)やデジタルトランスフォーメーション(DX)等、世の中はすごい勢いで変わっているようです。製品の利用・サービスの提供という部分に時代の流れ・変化を感じますが、現在の人と人とを繋ぐコミュニケーションを支えているのは、昔と変わることなく電子工学の人々に役立つモノ造りの技術でしょう。

歴史にifはありませんが、現代のコミュニケーションが2500年前にあれば、孔子がどのような言葉を残したであろうか気になることです。世の中の情報が多すぎて惑わされ、耳に入る意見も多すぎると嘆いたかもしれません。

# ホーチミンに駐在して思うこと

大竹 俊（平成6年情報卒）



## 1. はじめに

私は仕事の関係でベトナムのホーチミンに駐在しています。ベトナムの平均年齢は32歳と若く、国全体には活気があります。ここに住んでいると街全体がパワースポットのように感じることがあり、それは人口やバイクの多さによる動きの激しさ、目まぐるしさからくるものだけではなく、ベトナム人から受ける強いパワーやパッションだと思っています。この国は先進国に追い付こうという勢いと貪欲さがあり、良いと思ったものはどんどん取入れ、トライ＆エラーを重ねながら進めていくスピード重視の考えを持っています。日本に比べ細かいこと、体裁には拘らない国民性は、一見思慮深くないように映りますが、実はそうではなく力強さとして私は捉えています。ベトナムの経済成長は2050年まで続くと言われており、現在は東南アジアの中でというよりも世界的にホットな国の一つと言えます。

## 2. ホーチミン生活をご紹介

ホーチミンは熱帯モンスーン気候で、一年を通し最高気温が30度を下回ることは殆どありません。暑いですが一年中、半袖短パンで過ごせるのは非常に楽ちんです。そして、コーヒー好きの私にとって何より最高なことは、ここは世界第2位のコーヒー産地であり、大小様々な喫茶店が無数にあること。休日はあちこちの喫茶店に行き、コーヒーを飲みながら物思いにふけるのが私の習慣です。またベトナムは食材の宝庫でもあります。現在は日本食レストランも多く、日系大手外食チェーンも進出している状況ですが、ここに来たら栄養バランスも良く、安くてウマイベトナム料理をお勧めしたいです。皆さんが旅行される際は、是非とも味わってみてください。

## 3. 真の国際人になるってどういうこと？

私のベトナム生活は5年程ですが、これまで仕事を通じ、外国での大変さを感じると共に、国際人って何なのか考えるようになりました。一番の大変さはコミュニケーション。会社では日本人とベトナム人が英語を使って意思疎通を図っていますが、これが思いのほか大変。日本人同士でも意思疎通を図るのが難しいのに、英語が完璧でない者同士では大まかな話は通じて、細かいニュアンスが伝わらないことは日常茶飯事です。そして最近、細かいニュアンスが伝わったとしてもそれでお仕舞いでないことに気がきました。それは日本の常識がベトナムの常識ではないこと。私の言うことが日本で当たり前であっても、彼らにとって理解し難いことがあります。私が一方的に相手に理解してもらったと安堵していたら、実はそうではなかったということが多々あるのです。相互理解という言葉がありますが、相手が外国人であれば、その国の文化や生活習慣、国民性を学び、それを理解した上でコミュニケーションを図り、理解、納得してもらう。これができないうちは本来の意味である相互理解に結びつかないし、真の国際人とは言えないというのが私なりの結論です。

## 4. 世界のリーダーになってほしい

いろいろな苦勞がありながらも、海外にいると日本人の優秀さを感じます。それは日本人がこれまで培ってきた躰や武士道、教育システム、生活環境等がベースになった国民性だと思っています。しかしこの優秀さに気付いている日本人は少ないとも感じています。少なくともアジア各国で日本人は様々なリーダーになれると思いますし、各国は日本のリーダーシップにもっと期待しているように感じます。岩大のみなさん、そして卒業生の方々も、もしチャンスがあるならどんどん世界に出て、その優秀さに気付きリーダーシップを取ってほしい。その中で我々の仲間が一人でも多く、世界で活躍する姿を見たいと感じています。



## 支部だより



# 令和4年度東京支部報告

東京支部長

狩野 利之 (昭和61年電子卒)

2022年度の東京支部活動についての報告をいたします。

### 1. コロナ禍での支部行事

2020年当初よりコロナ禍の影響のため、例年実施してきた大学訪問や新会員歓迎会への出席などは見送りとなり、また各種会合については、集合形式での総会、懇親会などが開催できない状況が続き、当支部の活動もリモート形式での支部大会の開催や、新たな企画として1月に賀詞交歓会を開催するなど、皆様からのご要望やアイデアなどをいただき、おかげさまで制約のある中で様々な取り組みを実施してまいりました。変則的な形態での開催などにご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

### 2. 2022年度の東京支部大会はハイブリッド開催

2022年度の東京支部大会は、例年開催している6月に80周年の行事が予定されていたことから、当初より10月に変更してリアル開催とリモートを併用するハイブリッド形式での開催を計画しました。6月の80周年の行事は、コロナの状況を鑑み再延期という判断となり、盛岡で総会のみ開催ということとなりました。

さてその半年後は、皆様の願いが通じたのか、コロナの新規陽性者数などが小康状態で行動制限もない状況で、支部大会は、なんとか計画どおりのハイブリッド形式での開催にこぎつけました。

10月15日(土) 14時から久しぶりの新宿・日本料理 三平のサンパークホールとzoomによるリモートの形式です。当日はご来賓として、久保田会長、一祐会の柏葉会長はじめ、講演講師に西舘数芽先生、また建設系東京支部の竹ヶ

原会長、金属物性系東京支部の田中支部長、そして会場では32名、リモートでは17名の方々にご出席いただきました。

会は、両会長のご挨拶、活動報告と計画の承認などに続き、西舘先生より“岩大電気電子と私”と題してご講演、合わせて多くの写真で学内の近況や大学周辺の様子などをご紹介いただきました。そして久しぶりの集合写真の撮影後、当日最年長の昭和37年卒の柴田隆昭様の乾杯のご発声で懇親会が始まりました。参加の皆さまから近況のご報告、歌い継ぐ歌と続き盛会のうち中締めとなりました。今後もこのハイブリッド形態を基本に、参加しやすい支部大会を企画していきたいと思っております。



会場の様子 柴田様の乾杯



講師の西舘数芽先生



ハイブリッド形態を支えた技術陣

**2023年度東京支部大会**

**10月14日(土)**

**ハイブリッド開催**



# 令和4年度仙台支部報告

仙台支部長

田中 利光（昭和53年電気卒）

## 1. 宮城この一年

この一年も「コロナ」という言葉を一日たりとも聞かない日はありませんでした。一年前の令和3年(2021年)12月の宮城県内のコロナ陽性患者数/日(以下、陽性患者数)はほぼ0人でしたが、令和4年(2022年)に入ってから再び陽性患者数が増え、第3～7波の増減を繰り返し、そして現在令和4年(2022年)12月は第8波のまっただ中です。この宮城県は人口10万人当たりの陽性患者数は全国トップクラスとなってしまいました。

このような状況下にあいながらも、仙台の風物詩といわれるイベントが3年ぶりに縮小規模ながらも開催されました。5月に「仙台・青葉まつり」、8月に「仙台七夕まつり」、9月に「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」、そして10月には「みちのくYOSAKOIまつり」、12月には「SENDAI 光のページェント」が。すこしづつではありますが、社会経済活動も再開されるようになってきました。

令和5年(2023年)には、今度こそコロナ感染が収束しコロナ禍前並みの社会経済活動ができるようになることを祈ります。

## 2. 仙台支部この一年

令和4年(2022年)1月、4月に予定されていた新年会、長寿者を祝う会は全て中止とせざる

を得ませんでした。6月の仙台支部総会は集会方式での開催は前年と同様に断念し、役員一任によるメール方式で行いました。

役員会については、コロナが少し落ち着いた10月に開催し久しぶりに役員の顔を見ることが出来ました。令和4年(2022年)度(6月～5月)の今後の活動計画は以下のとおりです。

- ・令和5年(2023年)度1月  
役員会及び新年会
- ・同年4～5月  
科会80周年記念祝賀会開催準備

## 3. 宮城県内へお住まいまたはお勤めの卒業生へのお願い

このコロナの影響もあり対面の同窓会活動がほぼ皆無となってしまい、新規入会者がありません。このままでは科会活動の将来に不安を感じざるを得ません。

「きたかみ」は配達されて来るけど科会支部からのメールは受け取ったことはないという方、ぜひとも氏名、卒業年次・学科、メールアドレスの情報を添えて以下へ連絡をお願いします。支部総会開催案内、イベント開催案内等を連絡いたします。

- ・連絡先(仙台支部代表メールアドレス)  
iwueecsb@gmail.com



# 令和4年度盛岡支部報告

盛岡支部長

宮手 敏 雄（昭和44年電気卒）

## 1. 岩手県内の近況

県内の新型コロナ禍は2022年1月まで「岩手の奇跡」と言われるほど少なく、毎月の感染は多くても100人ほどでしたが翌2月以降、6波・7波・8波と思われる大波とともに陽性者が急増しました。8月は3万台、新年の1月には過去最多の46,878人に達しました。中旬以降やや減少傾向ですが、高齢者を中心に毎日5～7人の訃報が気になります。

ワクチン接種が進んだせいか、新型コロナ対策に飽きたせいか、街中の人出はやや増えてます。

こんな状況下でもスポーツ界は明るい話題が続いています。この3月に行うWBC (World Baseball Classic)の侍ジャパンに、ベーブ・ルース以来の2桁勝利と2桁本塁打を達成したエンジェルス二刀流・大谷翔平選手(奥州市水沢出身)と、2022年4月10日に最年少の完全試合を成し遂げた千葉ロッテマリーンズの佐々木朗希選手(陸前高田市出身)が選ばれました。

世界のトップジャンパー小林陵侷選手(八幡平市出身)、ワールドカップで優勝を続けるスノーボードの岩淵麗楽選手(一関市出身)。大相撲では三役に迫る勢いの錦木徹也関(盛岡市出身)が活躍しています。

新年13日、県内に超サプライズ・ニュースが飛び込みました。12日付ニューヨーク・タイムズが特集「2023年に行くべき52か所」で、世界各地の旅先の中でトップのロンドンに続く2か所目に盛岡市に挙げました。城跡や大正時代の和洋折衷の雰囲気が残る建築物があり、コンパクトで散策に最適の街だと紹介しています。この他、国内では19か所目に福岡市を取り上げてます。

## 2. 支部総会報告

支部総会は前年同様、本部総会の仙台開催が中止となったことから、6月25日に盛岡で開催された本部総会に併せて支部総会も開き、以下の議案を審議しました。

1. 令和3年度 事業報告
2. 令和3年度 決算並びに会計監査報告
3. 令和4年度 事業計画  
(事業所見学会は中止)
4. 令和4年度 予算
5. 盛岡支部役員を選出
6. その他(両総会終了後の昼食会費用の一部負担を緊急提案)

出席者は18人で、全議案とも満場一致で承認されました。

## 3. 2年ぶりに新年会

新型コロナ禍で断念していた支部主催の科会新年会を、感染防止策を講じた「特異な形態」で、新年1月21日本部第3回理事会終了後の午後1時過ぎから、エスポワールいわてで開催しました。

従来の円卓、大皿でなく個々の「お弁当」箱、さらに酒類なし。本部理事と盛岡支部会員の計13人が参加しました。冒頭に定年退職された恒川佳隆先生(科会理事)に感謝の花束を贈りました。

新年おめでとう！の合唱？後、小声で昼食を味わい、マスクをして参加者全員の時間無制限の近況報告に入りました。皆さんお歳以上にお元気で、恩師や上田界隈の思い出話、元気を保つ秘訣など幅広い話に盛り上がりました。暗くなるまで続きそうでしたが、大羽澤仁志さんの三本締めでお開きしました。酒豪の皆様は陳謝！



令和5年 科会新年会



# 令和4年度岩手大学電気電子情報科会総会

岩手大学電気電子情報科会の令和4年度総会は、新型コロナウイルス感染症の感染者数が少しだけ減少傾向にあって、6月25日に久しぶりに制限のない状態で開催されました。

80周年記念式典に向けて、リモートによるライブ配信の試行を兼ねて東京支部からの出席もありました。

役員改選があり、大学在職の副会長だった恒川氏が退職のため理事に、長い間事務局として

ご尽力いただいた長田氏が副会長に、その後任として高橋氏が事務局に就任しました。

また、東京支部幹事の薄衣氏が退任、仙台支部幹事の千葉氏と菅原氏が退任し、後任に加藤氏が就任しました。

総会後の講演会もなく、本来なら大いににぎわう懇親会も、黙食を守っての昼食会で終わりました。



## [議事録]

令和4年6月25日(土) 11:30から  
エスポワールいわて3F

議長：伊東 寿枝氏(平成元年電子卒、理事)  
書紀：木村 彰男氏(平成3年情報卒、理事・事務局)  
阿部 貴美氏(平成20年電電修了)

### ○第1号、第2号議案について

事務局より、令和3年度に実施された事業、すなわち会誌きたかみの発行、ホームページ運営委員会活動、正会員歓迎会(中止)、草刈賞委員会活動、会費検討委員会活動、科会創立80周年記念事業実行委員会活動、の計6件に関する報告、および令和3年度の決算報告が行われ、続いて、会計監査より監査報告が行われた。特に異議なく、承認された。

### ○第3号、第4号議案について

事務局より、令和4年度に実施予定の事業6件(昨年度と同様の6件)、およびそれらを勘案した予算案の説明が行われた。第3号議案に関しては特に異議なく承認された。第4号議案

については、一部金額の記載ミスがあり、改めてメールにて原案を周知することとして承認された。

### ○第5号議案について

事務局および選考委員長より、令和4年～5年度の役員に関する原案が説明された。

- ・会長は久保田賢二氏留任
- ・副会長に、長田洋氏(前理事・事務局)
- ・理事に、恒川佳隆氏(前副会長)
- ・理事・事務局に、高橋克幸氏(新任)
- ・東京支部幹事の薄衣文雄氏が退任
- ・仙台支部幹事に加藤雅和氏が就任(新任)

これらの改選について、特に異議なく、承認された。

### ○第6号議案について

事務局より、科会創立80周年事業に関する実施原案の詳細、およびそれに係る予算案が説明され、特に異議なく承認された。

### ○その他

特になし。

以上

# 令和4～5年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿

(令和5年1月1日現在)

役職名	氏名	卒業年学科	役職名	氏名	卒業年学科
会長	久保田 賢二	S42 電気	東京支部		
副会長・事務局	柳 橋 好子	S45 電子	幹事	小 磯 巖 男	S51 電気
副会長	立 花 龍一	S61 情報	幹事	畠 山 主	S54 情報
副会長	長 田 洋	S62 電気	幹事	吉 澤 和 弘	S54 情報
理事	小野寺 瑞穂	S29 電気	幹事	畠 山 寧	S59 電子
理事	佐 藤 匡	S40 電気	幹事	田 口 之 博	S61 電子
理事	吉 田 英 夫	S41 電気	幹事	山 道 隆 男	S62 電気
理事	武 田 寿 郎	S41 電気	幹事	富 塚 秀 樹	H02 電気
理事	千 葉 則 茂	S50 電気	幹事	中 山 靖 茂	H04 電気
理事	恒 川 佳 隆	S55 電気	幹事	遠 藤 慎 介	H04 電子
理事	鳥谷部 達雄	S56 情報	幹事	三 浦 友 規	H16 電電修
理事	伊 東 寿 枝	H01 電子	盛岡支部		
理事	村 田 崇	H02 電気	幹事	岡 英 夫	S48 電子修
理事	大羽澤 仁志	H02 電気	幹事	池 内 達	S50 電子
理事・盛岡支部長	宮 手 敏 雄	S44 電気	幹事	佐 藤 信	S57 電子
理事・仙台支部長	田 中 利 光	S53 電気	幹事	佐 藤 文 昭	S59 電子
理事・東京支部長	狩 野 利 之	S61 電子	幹事	泉 澤 栄	S60 電子
理事・事務局	木 村 彰 男	H03 情報	幹事	高 橋 康 浩	S62 電気
理事・事務局	高 橋 克 幸	H21 電電修	幹事	伊 東 寿 勝	H01 電気
会計監査	佐々木 眞嗣	S62 電子	幹事	千 葉 幸 二	H04 情報
会計監査	大 坊 真 洋	H11 電情博	幹事	金 澤 博 昌	H06 情報
顧問	佐々木 経夫	特	仙台支部		
顧問	藤 原 民 也	特	幹事	加 藤 雅 和	S49 電子
相談役(元会長)	阿 部 長 一	S19 専門	幹事	田 代 良 二	S55 電気
相談役(元会長)	山 崎 時 男	S24 専門	幹事	菅 野 丘	S63 情報
相談役(元会長)	太田原 功	S30 電気	幹事	柏 葉 安 宏	H09 電電
相談役(元会長)	柏 葉 安兵衛	S38 電気			
相談役(元会長)	旗 福 寛	S38 電気			

# 令和4年度電気電子通信コース、 知能・メディア情報コース教職員名簿

令和5年1月1日現在

電気電子通信コース (コース長 長田 洋 教授)	
職 名	氏 名
教 授	長 田 洋
教 授	小 林 宏一郎
教 授	高 木 浩 一
教 授	西 館 数 芽
教 授	本 間 尚 樹
教 授	向 川 政 治
准 教 授	叶 榮 彬
准 教 授	秋 山 雅 裕
准 教 授	菊 池 弘 昭
准 教 授	大 坊 真 洋
准 教 授	高 橋 克 幸
准 教 授	三 浦 健 司
助 教	阿 部 貴 美
助 教	岩 井 守 生
助 教	佐 藤 宏 明
助 教	田野崎 真 司
助 教	村 田 健太郎

知能・メディア情報コース (コース長 今野晃市 教授)	
職 名	氏 名
教 授	今 野 晃 市
教 授	永 田 仁 史
教 授	西 山 清
教 授	萩 原 義 裕
教 授	藤 本 忠 博
教 授	山 中 克 久
准 教 授	明 石 卓 也
准 教 授	木 村 彰 男
准 教 授	談 宜 育
准 教 授	張 建 偉
准 教 授	中 谷 直 司
准 教 授	松 山 克 胤
准 教 授	平 山 貴 司
助 教	佐 藤 信
助 教	藤 岡 豊 太
助 教	游 夢 博
助 教	盧 忻
事務補佐員	懸 田 ひかる

## 理工学系技術部

職 名	氏 名
技術専門員	千 葉 寿
技術専門員	萩 原 由香里
技術専門職員	志 田 寛
技術専門職員	藤 原 步
技術専門職員	古 館 守 通
技術職員	庄 司 愛 子
技術職員	増 山 静 香
技術職員	平 山 有 沙
技術職員	藤 野 圭 祐
技術職員	太 田 康 治
技術職員	紺 野 亮
技術職員	那須川 徳 博

## 情報技術部

職 名	氏 名
技術室長心得	加 治 卓 磨

# 令和4年年表

1/21	電気電子工学専門研修 「Beyond 5G/6Gの実現に必要な同期技術」 日本電気株式会社システムプラットフォーム研究所 高橋 正行氏
1/24	令和3年度第3回理事会事前打ち合わせ 「きたかみ」68号第3回編集委員会 久保田会長・柏葉相談役・ 宮手盛岡支部長・長田理事・木村理事・柳橋理事 理工学部地域連携センター
1/25-26	令和4年度大学院総合科学研究科理工学専攻第2期入学者選抜試験《令和4年4月入学》
1/27	令和4年度大学院理工学研究科博士課程第2期入学者選抜試験《令和4年4月入学》
1/28	電気電子工学専門研修 「電機産業の全体像」 一般社団法人 日本電機工業会 新事業・標準化推進部 部長 大隅 慶明氏
1/29	令和4年度第3回理事会 新型コロナウイルス感染症オミクロン株拡大防止のため延期
2/4	電気電子工学専門研修 「岩手県庁の電気職」 岩手県企業局 経営総務室 特命課長 細川 普基氏
2/4	入学願書受付締切。システム創成工学科電気電子通信コース：前期 2.0 倍，後期 12.3 倍，同知能・メディア 情報コース：前期 2.4 倍，後期 7.3 倍
2/10	きたかみ 68 号校了
2/17	知能・メディア情報コース 卒業研究発表会
2/18	理工学専攻知能情報コース 修士論文審査発表会
2/25	令和4年度理工学部 一般選抜個別学力検査 前期日程
3/1	きたかみ 68 号発行 5,400 部
3/2	令和3年度第3回理事会事前打ち合わせ 久保田会長・柏葉相談役・宮手盛岡支部長・長田理事・木村 理事・柳橋理事 理工学部地域連携センター
3/5	令和3年度第3回理事会 80周年記念事業第4回実行委員会 12人（東京支部長・仙台支部長 Zoom 参加） エスポワールいわて小会議室
3/12	令和4年度理工学部 一般選抜個別学力検査 後期日程
3/23	岩手大学学位記授与式 理工学部卒業生：システム創成工学科（電気電子通信コース 54 名，知能・メディア情報情報コース 56 名） 工学部卒業生：電気電子・情報システム工学科（情報システム工学コース 1 名）
3/31	電気電子通信コース 恒川佳隆 教授 定年退職
4/1	談宜育氏を知能・メディア情報コース准教授として採用
4/7	岩手大学入学式 理工学部入学生：システム創成工学科電気電子通信コース 66 名（うち地域創生特別プログラムものづくり 系 1 名），同知能・メディア情報コース 63 名（うち地域創生特別プログラムものづくり系 2 名） 3 年次編入学生：電気電子通信コースなし，知能・メディア情報コース 2 名 総合科学研究科理工学専攻修士課程入学生：電気電子通信コース 25 名，知能情報コース 15 名
4/14	電気電子工学専門研修 「エンジニアが伝える学問の価値と仕事の関わり、進路について」 株式会社フォーラムエンジニアリン グ 大学支援推進部 シニアマネージャー 服部忠幸氏 「理工系専攻別進路選択講座」 株式会社リクルート Division 統括本部 HR 本部 新卒 Division 大学 支援推進部 地域活性 1 グループ 東北チーム 菅野大和氏
4/28	電気電子工学専門研修 「いわて半導体アカデミーの紹介」 岩手大学生産技術研究センター花巻サテライト 梅木和博氏 「岩手大学卒業生からのアドバイスと体験談」 株式会社ツガワ 技術営業本部 開発技術部 上路健史氏
5/11	令和3年度執行部打ち合わせ 久保田会長・柏葉相談役・長田理事・木村理事・柳橋副会長 理工学地 域連携センター
5/12	電気電子工学専門研修 「フラッシュメモリの秘密と半導体技術の動向、そして半導体産業の拡大について」 キオクシア岩手 株式会社 生産技術部長 神垣哲也氏
5/19	電気電子工学専門研修 「岩手大学卒業生からのアドバイスと体験談」 TDK エレクトロニクスファクトリーズ(株)北上工場 (株)多加良製作所 岩手工場 (株)デンソー岩手
5/25	令和3年度岩手大学電気電子情報科会計監査 大坊真洋会計監査・佐々木眞嗣会計監査・久保田会長・ 柏葉相談役・柳橋副会長 岩手大学地域連携センターミーティングルーム
5/26	電気電子工学専門研修 「我が国のエネルギー政策と風力発電所の建設について」 (株)岡山建設 代表取締役社長 岡山信広氏 専務取締役 齋藤英明氏
6/2	電気電子工学専門研修 「車載向け半導体製造における生産技術エンジニアの役割」 (株)デンソー岩手 木川雅之氏
6/9	電気電子工学専門研修
6/9	令和4年度第1回理事会打ち合わせ、80周年記念事業第5回実行委員会打ち合わせ 久保田会長・柏葉 相談役・立花副会長・長田理事・木村理事・柳橋理事 理工学部地域連携センターミーティングルーム
6/11	令和4年度仙台支部総会
6/12	令和4年度第1回理事会 総会提案議案審議ほか 17 人 盛岡市エスポワールいわて特別室 「火力発電の役割と取り組みについて」 東北電力(株)加藤尚之氏，伊勢慶一氏
6/16	電気電子工学専門研修 「モバイル通信 6G への取り組みについて」 株式会社 NTT ドコモ 鈴木恭宜氏
6/17	令和5年度理工学部一般編入学者選抜試験

6/23	電気電子工学専門研修 「岩手大学卒業生からのアドバイスと体験談」(株)ワイ・デー・ケー 東北電力ネットワーク(株)岩手支社(株)アイオー精密
6/25	令和4年度岩手大学電気電子情報科会総会 22人 エスポワールいわて3階特別ホール室 令和3年度事業報告・決算報告・監査報告、令和4年度事業計画・予算、80周年記念事業について
6/25	令和4年度盛岡支部総会 エスポワールいわて
6/30	電気電子工学専門研修 「風力発電所の運転管理の実態」(株)アウラエンジニアリング&サービス 代表取締役 岡山信広氏
7/1	総合科学研究科(修士課程)理工学専攻推薦入学者選抜試験《令和5年4月入学》
7/7	電気電子工学専門研修 「森林資源を活かしたグリーンリカバリー」(株)竹中工務店技術研究所 山崎慶太氏
7/14	電気電子工学専門研修 「半導体微細加工を応用したMEMS ～アプリケーションと作製技術の紹介～」 東北大学マイクロシステム融合研究開発センター 教授 戸津健太郎氏
7/14	電気電子工学専門研修 「トヨタ自動車東日本の取組み」トヨタ自動車東日本(株) 箱石一記氏
8/1	游夢博氏を知能・メディア情報コース助教として採用
8/8	岩手大学オープンキャンパス
8/18-19	令和4年度大学院総合科学研究科理工学専攻(修士課程)入学者選抜試験《令和4年10月入学》 令和5年度大学院総合科学研究科理工学専攻(修士課程)入学者選抜試験《令和5年4月入学》 令和4年度大学院理工学研究科博士後期課程入学者選抜試験《令和4年10月入学》 令和5年度大学院理工学研究科博士後期課程入学者選抜試験《令和5年4月入学》
8/25	令和4年度第2回理事会打ち合わせ 久保田会長・柏葉相談役・長田副会長・木村理事・柳橋理事・高橋理事 理工学部地域連携センターミーティングルーム
9/3	令和4年度第2回理事会 エスポワールいわて 15人 令和4年度事業計画について
9/上	令和5年度理工学部総合型選抜I入学試験(第1次書類選考)
9/26	令和4年度岩手大学修了式・卒業式(農業教育資料館) 理工学部卒業生:知能・メディア情報コースなし 工学部卒業生:電子電子・情報システム工学科なし 大学院工学研究科博士後期課程修了生:電気電子・情報システム工学専攻なし
9/28	【ソフトパス理工学総合研究センター後援 学術講演会】 「量子時代を拓く新国際単位系SIと電磁気学」北野正雄氏(京都大学名誉教授)
10/1	岩手大学入学式(令和4年度10月入学者) 総合科学研究科理工学専攻修士課程入学生:電気電子通信コースなし, 知能情報コースなし 理工学研究科システム工学専攻博士課程入学生:電気電子通信工学コース2名, 知能情報工学コースなし
10/8	令和5年度理工学部総合型選抜I入学試験(第2次選考)
10/9	令和5年度理工学部総合型選抜II入学試験(第1次選考)
10/15	令和4年度東京支部大会 新宿サンパークビル「日本料理三平」本館7階大ホール
11/10	きたかみ69号第1回編集委員会 岩手大理工学部3号棟会議室 久保田会長・宮手盛岡支部長・柏葉相談役・木村理事・高橋理事・柳橋理事
11/11	電気電子工学専門研修 「SiC 極限環境エレクトロニクスの研究開発:原子炉廃炉対応から宇宙・医療応用まで」広島大学ナノデバイス研究所 教授(副研究所長) 黒木伸一郎氏 「再生可能エネルギー導入における課題と対策」東北電力ネットワーク株式会社電力システム部 細越秀男氏
11/18	電気電子工学専門研修 「積層セラミックコンデンサの市場環境および技術動向」TDK株式会社 渡邊 篤氏, 佐藤綾子氏
11/22	令和5年度岩手大学理工学部学校推薦型選抜入学試験
11/25	電気電子工学専門研修 「地域産業論『地方創生時代の北上市の挑戦』」株式会社 北上オフィスプラザ 専務取締役 石川明広氏(前北上市商工部長)
12/2	電気電子工学専門研修 「東京エレクトロニクステクノロジーソリューションズ(株)における『縦型炉・成膜装置でのイノベーション創出』」 東京エレクトロニクステクノロジーソリューションズ(株) 製品企画第二プロジェクト 加藤 寿氏
12/5, 7	理工学専攻(修士課程)知能情報コース修士論文予備審査会《令和5年3月修了予定者》(分野別実施)
12/7	理工学専攻(修士課程)電気電子通信コース1年次中間発表会
12/9	理工学専攻(修士課程)知能情報コース1年次中間発表会(ポスター発表形式)
12/9	電気電子工学専門研修 「非接触生体信号計測技術の開発」ネオテックラボ 上田智章氏
12/23	電気電子工学専門研修 「電機業界の概要と最新動向」一般社団法人 日本電気工業会 技術戦略推進部長 磯 敦夫氏
12/17	令和4年度第3回情報処理学会東北支部研究会(オンライン開催)
12/20	きたかみ69号第2回編集委員会及び新年理事会及び新年会の件、打ち合わせ 岩手大理工学部3号棟会議室 久保田会長・宮手盛岡支部長・柏葉相談役・立花副会長・木村理事・高橋理事・柳橋理事
12/23	電気電子工学専門研修 「キャリア選択のための企業論」(株)ソフトクリエイティブホールディングス 吉川智雄氏

# 岩手大学電気電子情報科会会則

## 第1章 総 則

- 第1条 本会は岩手大学電気電子情報科会と称する。
- 第2条 本会は盛岡高等工業学校電気科、盛岡工業専門学校電気科、岩手大学工学部電気情報系工学科、並びに岩手大学理工学部システム創成工学科電気電子通信コース、知能・メディア情報コース（以下、電気情報系コースという）及び大学院工学研究科電気情報系工学専攻並びに岩手大学大学院総合科学研究科理工学専攻電気電子通信コース、知能情報コース（以下、岩手大学大学院電気情報系コースという）の傘下集った者の親睦を図り、緊密な連絡をとり、電気工学、電子工学、情報工学に関する知識を交換する。
- 第3条 本会の本部事務所は盛岡市上田 岩手大学理工学部電気情報系コースに置く。  
本会に支部を置くことができる。支部の設置は総会の承認をうけるものとする。
- 第4条 本会は第2条に定めた目的を達成するために会誌の発行、講演会等を行う。

## 第2章 会 員

- 第5条 会員を分けて特別会員、正会員、準会員とする。
- 第6条 特別会員は岩手大学工学部電気情報系工学科、岩手大学理工学部電気情報系コースの現・旧教職員とする。
- 第7条 正会員は盛岡高等工業学校卒業生、盛岡工業専門学校卒業生、岩手大学工学部電気情報系工学科卒業生、岩手大学理工学部電気情報系コース卒業生、岩手大学大学院工学研究科電気情報系工学専攻修了生、岩手大学大学院電気情報系コース修了生、並びに役員会の承認を経た者とする。
- 第8条 準会員は岩手大学工学部電気情報系工学科及び岩手大学理工学部電気情報系コースの在校生、並びに岩手大学大学院工学研究科電気情報系工学専攻学生、岩手大学大学院電気情報系コース学生のうち正会員でない者とする。

## 第3章 会 計

- 第9条 本会の会計は一般会計及び基金特別会計とする。基金は将来のために積み立てるものとする。但し、その利息は一般会計に繰り入れることができる。
- 第10条 会費は準会員入会時に入会費として10,000円を納入する。また、卒業後10年を経過した正会員は年会費として10年毎に10,000円を納入する。尚、納入した会費は理由の如何を問わず返却しない。
- 第11条 本会の収支は毎年4月末日に於いて決算を行い、会計監査を経て総会に於いて承認をうけ併せてこれを報告する。

## 第4章 会 議

- 第12条 会議は総会、臨時総会、役員会及び理事会とする。  
理事会は、会長、副会長、理事及び相談役を以て構成する。

- 第13条 総会は毎年1回会長がこれを招集して出席人員を以て成立する。
- 第14条 臨時総会は役員会に於いて必要と認められた時、会長がこれを招集する。
- 第15条 役員会及び理事会は必要に応じて会長が招集する。

## 第5章 役 員

- 第16条 本会に次の役員を置く。
- |      |      |                                   |
|------|------|-----------------------------------|
| 会 長  | 1名   | 正会員より選出する。                        |
| 副会長  | 3名以内 | 正会員より選出する。                        |
| 理 事  |      | 正会員より互選する。<br>尚、各支部長は理事を兼ねるものとする。 |
| 会計監査 | 2名   | 正会員より選出する。                        |
| 幹 事  |      | 正会員より理事会で推薦し会長が委嘱する。              |
| 顧 問  | 若干名  | 特別会員より会長がこれを委嘱する。                 |
| 相談役  |      | 元会長は終身相談役として委嘱するものとする。            |
- 第17条 各役員の任期は2ケ年とし、再選できる。改選は総会に於いて行なう。  
但し任期中欠員ができた場合は役員会に於いて選出し補充する。
- 第18条 会長は本会を代表しその事務を総括する。  
副会長は会長を補佐する。  
理事は本会の庶務を掌理する。  
会計監査は会計を監査する。  
事務局担当理事は本会の会計を掌理し、且つ金品物件の保管の責に任ずる。  
幹事は会員相互の親睦と連絡の任に積極的にあたる。
- 第19条 支部に支部長を置き、本部に準じて役員をおくことができる。

## 第6章 会誌、講演会及び座談会

- 第20条 本会は会誌「きたかみ」を発行して会員に配付する。
- 第21条 講演会及び座談会は随時行なう。
- 第22条 支部の内規は各支部に於いて定め、会長の認可を受けることにする。
- 第23条 会則の変更は総会に於いて過半数の賛成が無ければ変更する事ができない。

## 付 則

- 本会則の第10条の改定は、平成16年5月1日から施行する。
- (昭和17年1月1日制定) (平成4年度総会一部改正)  
(昭和25年度総会一部改正) (平成11年度総会一部改正)  
(昭和37年度総会一部改正) (平成12年度総会一部改正)  
(昭和40年度総会一部改正) (平成15年度総会一部改正)  
(昭和41年度総会一部改正) (平成20年度総会一部改正)  
(昭和46年度総会一部改正) (平成21年度総会一部改定)  
(昭和50年度総会一部改正) (平成22年度総会一部改定)  
(昭和51年度総会一部改正) (平成27年度総会一部改定)  
(昭和56年度総会一部改正) (平成28年度総会一部改定)

# 「きたかみ」69号トピックス

ニューヨーク・タイムズ紙が「2023年に行くべき52カ所」としてロンドンに次いで2番目に紹介したのが、なんと盛岡市だったことは、全国紙やテレビでもとりあげられて話題になっていますので、みな様はすでにご存じだと思います。

一番驚いたのは、盛岡市民と岩手県民。テレビで「日本にはほかに有名な観光地が沢山あるのに」と言っていました、まさに誰もがそう感じたことと思います。

でも「隠れた宝石のような街」と表現されたように、歴史ある建物や橋、公園の石垣、民芸店、そして地元の喫茶店などなど、確かに歩いて回れる範囲に、まさに小さな宝石が散りばめられた街だと住民は再認識したところです。



## 編集後記

「きたかみ」69号をお届けします。新型コロナウイルス感染症は収束の気配もなく、感染拡大防止のために事業の中止が相次ぎ、会員のみな様と顔を合わせる機会が極端に減りました。

今年は6月に仙台で総会と延び延びになっている80周年記念式典を開催します。今年こそ実現できるように切に願っています。

コロナがなければ総会や新年会でお会いできたであろう大先輩の訃報が届きました。後輩にいつも蘊蓄のあるお話しをしてくださり、寂しい限りです。

また、佐々木久江さんの訃報も届きました。電気系校舎に専門の図書室があったころ、いつも学生のために専門書などの手配をしてくれた彼女です。小さな図書室で彼女の穏やかで優しく凛とした姿に癒された学生は多かったと思います。私には一生の友でした。いつでも連絡できると思っていたうちに、会えないまま静かに逝ってしまいました。みな様のご冥福を祈るばかりです。

編集委員 久保田 賢 二 (会長：昭和42年電気卒)  
柏 葉 安兵衛 (相談役：昭和38年電気卒)  
宮 手 敏 雄 (盛岡支部長：昭和44年電気卒)  
立 花 龍 一 (副会長：昭和61年情報卒)  
木 村 彰 男 (事務局：平成3年情報卒)  
高 橋 克 幸 (事務局：平成21年電電修)  
柳 橋 好 子 (副会長・事務局：昭和45年電子卒)

### きたかみ 第69号

発行日 令和5年3月1日  
発行者 盛岡市上田4丁目3番5号  
岩手大学工学部内  
岩手大学電気電子情報科会  
☎ 019-621-6460  
印刷所 (株)阿部謄写堂  
盛岡市本町通2丁目8番37号  
☎ 019-623-2361



# 創立80周年記念式典並びに令和5年度総会のご案内

岩手大学電気電子情報科会は令和4年1月1日で創立80周年を迎えました。新型コロナウイルス感染症拡大により延び延びになっておりました創立80周年記念式典と令和5年度総会を下記のとおり開催いたします。記念式典では、75周年以降に該当者となられた功労者4人の方々を表彰いたします。その後に祝賀会で受賞者の方々や恩師、会員のみな様とご歓談をお楽しみいただきたいと思います。

なお、住所や勤務先の確認にも使用させていただきますので、連絡用フォームへの入力、綴込みのはがき等で記念式典・祝賀会・総会の出欠を令和5年5月17日までにご連絡いただきますようお願いいたします。

## 記

日 時：令和5年6月17日（土）

仙台支部総会 午後1時00分～1時30分  
総会 午後1時30分～2時30分  
記念式典 午後2時30分～3時30分  
記念講演 午後3時30分～4時30分  
記念写真 午後4時30分～5時00分  
祝賀会 午後5時00分～7時00分

場 所：仙台市 仙台ガーデンパレス  
〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4丁目1-5  
電話 022-299-6211

なお、会場からのリモート接続、ライブ配信も合わせてハイブリッド形態で実施いたします。こちらでの参加も可能です。

記念式典：草刈功労特別賞表彰  
草刈功労賞表彰

総会 議題：1. 令和4年度事業報告・決算報告  
2. 令和5年度事業計画案・予算案  
3. その他

祝賀会会費：7,000円（昨年秋・今年春に叙勲された方をご招待し、席上で祝意を表します。叙勲された方をご存じの方はお知らせください）

**なお、新型コロナウイルス感染症拡大により、総会、記念式典・祝賀会が延期または中止になることがあります。ご了承ください。**

連絡先：総会出欠や叙勲された方のお知らせ等、以下の連絡用フォーム、会誌「きたかみ」に綴込みのはがき、下記事務局宛電話、FAX、E-mail等でご連絡下さい。

岩手大学電気電子情報科会 E-mail：iwate.ddj.kakai@gmail.com  
岩手大学電気電子情報科会事務局（岩手大学理工学部内）  
電気電子通信コース担当 高橋 克幸 TEL・FAX 019-621-6460  
知能・メディア情報コース担当 木村 彰男 TEL・FAX 019-621-6488  
庶務会計・学外担当 柳橋 好子 TEL・FAX 019-686-2253

### <連絡用フォームへご登録のお願い>

「電気電子情報科会東京支部連絡フォーム 兼 科会創立80周年記念式典連絡フォーム 兼 科会令和5年度総会 連絡フォーム」

URL かQRコードを読み取って、連絡用フォームに出欠やご連絡先等をご登録ください。リモート接続、ライブ配信の情報等をお知らせいたします。

連絡用フォームのQRコード  
URL：<https://forms.gle/5AajqLjbfu1Mf8y6>

